

令和7年度		
氏名	いたくら たかき 板倉 貴樹	
生年	昭和51年生	
住所	長野県天龍村	
品目	ていざなす <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治20年頃天龍村に導入された「なす」で、アメリカ原産と考えられている。長さ25cm、重さ400g以上と大型で、アクが少なくとろけるような食味が特徴。 ・ 天龍村神原地区で、門外不出の「なす」として栽培、採種が行われてきた。平成19年に「天龍村ていざなす生産者組合」が設立され、組合員と天龍農林業公社により安定した生産量が確保されている。 ・ また、同年には「信州の伝統野菜」に選定され、地域を挙げてその伝承及び振興が図られている。 ・ 年間約18,000本が生産されており、天龍村の主力農産物の一つ。観光客向けメニュー（ていざなす定食）など、食文化形成にも貢献。 	
技術	環境負荷を抑制した伝統野菜の栽培、伝承及び遺伝的多様性を重視した採種 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域循環を重視した資材の活用（放置竹林から作った「竹パウダー」、落ち葉や自家養鶏で発生する鶏糞など） ・ 種苗会社での経験を元に独自開発した高接ぎ苗による連作障害対策 ・ 採種ほ場では、採種時の選抜圧を回避するため、様々な形の果実から種子を採取し、それらを混合して保管。 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成15年に天龍村にUターンし就農。平成24年から「ていざなす」生産に取組 ・ 令和6年に、板倉氏を発起人として「南信州伝統野菜協議会」を設立。飲食店や行政と連携し、イベント出展や直売活動を展開 ・ 協議会として、下伊那農業高校で、南信州の伝統野菜についての講義や栽培指導、収穫物のファーマーズマーケットでの年4回の共同販売 ・ 天龍村での実習受け入れ（令和6年度：東京農業大学、令和7年度：信州大学での講義）、村役場の事業の一環で天龍村へフィールドワークに訪れる大学生への実習 ・ 天龍小学校において、「ていざなす」の栽培・調理の食育の講師 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ なすの連作障害に耐えうる育苗技術（接ぎ木） ・ 固定種や伝統野菜の採種や栽培技術 ・ 環境再生型農業について 	
受賞歴等		
主な役職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度～ 天龍村ていざなす生産者組合 組合長 ・ 令和6年度～ 天龍村十久保南蛮生産者組合 組合長 ・ 令和6年度～ 南信州伝統野菜協議会 会長 	
H P		

